



# 寺ネット・サンガ通信 第6号

寺ネット・サンガ事務局 〒103-0027 東京都中央区日本橋3-2-14 日本橋 KN ビル 4階

Tel 03-5201-3976・Fax 03-5201-3712・メール info@teranetsamgha.com



## 中下代表のブログ から



### いわき市の仮設住宅を訪問して

「中下大樹のブログ」（2012年1月31日）を編集

福島原発からすぐ近く、富岡町の方々が避難されている、いわき市の仮設住宅を訪問。様々な方々からお話を聞く。3.11直後、親戚や子どもの家を転々とし、少なくとも4回以上は住む場所を変えてきたと多くの方から聞いた。数々の避難所や親戚等の家を転々とする中で体調を崩し、そのまま肺炎等で亡くなった高齢者も多い。



そして、福島の方々と、岩手・宮城と決定的に違うことは「先が見えない」ということ。放射性物質の問題で、この先、どうなるのか…。政府もはっきり言わない、今住んでいるところも定住できない、仕事もない、先行きは不安だ…。「先が見えない」不安感が、イライラを募らせているように感じた。

「遠くにいる親戚も最初『何でも言っただけ。出来る限りのことはする』と言っていたけど、これだけ避難生活が長引いて、居候生活が長引けば『そろそろ出て行って』だもの。親類であっても誰も助けてはくれないし、私達は自分が一番かわいい。それは自然なこと。人間なんてそんなものよ」など、本音の部分も数多く聞いた。

仮設住宅の中に入れていただき、実際の生活空間の中でお話も数多く聞いた。そして、同じ福島県人同士でも、なかなか仲良くできないという現実もあるのだ。避難してきている方々に対し、元から住んでいる福島県人が、「あんたらは税金を払っていないだろう。国や行政に文句なんか言える立場か?」「原発の恩恵を受けて来て、今更なんだよ!」などなど、同じ福島県人同士でも対立がある。

会津若松に行った時も、「俺達、大熊町の間人は、会津の間人から『出ていけ』と言われるんだ。こっちも、好きで大熊町を離れているのではないのに…」。「そりゃあ、3.11直後は、日本はもちろん、世界中からの支援もあったよ。でも今は、同じ福島県の人からも良く思われていないだよ」そのような声をたくさん聞いた。

人間とは何か? 生きるとはどういうことか? ということを、改めて「福島」という場所で私は考え、自問自答している。きっとそれは、東京にいて、メディアが流す情報をそのまま鵜呑みにしては見えてこないことだろう。自分の目で見て聞いて、現場に足を運び、自分の五感を通じて感じ取った感覚を大事にしたいと思。「いのち」の現場に我が身を置いて、そこから見えてくるもの、感じ取れるものをありのままに見て、その現実をもとに、自分の進むべき道を模索していきたいと強く思う、今日この頃。

### ほっとコラム いのちに向き合い、有縁社会をつくる「寺ネット・サンガ」

貧困・孤独死・自死・無縁社会、また被災地をめぐる様々な問題、そんな苦悩に満ちた現代社会。その一方で、死を切り離し、葬儀不要論がまかり通り、いのちに向き合う機会が減ってしまった昨今。さまざまな形でいのちの問題に向き合い奔走する僧侶たちと、共に学び、語り合い、生きる道を求める縁結びの場所。それが「寺ネット・サンガ」です。

「無縁社会から有縁社会へ」を念頭に、この時代に・この街で・共に生きるみなさんと、これからも楽しく、真剣に、寺と人との網「寺ネット」を編み続けたいと思います。

『坊コン』それは、坊さんと話せる日、坊さんに話せる場。

2011年

10月15日(土)



築地本願寺の見学会も開催

**プチ法話 「先ず臨終の事を習うて」** 大田区 日蓮宗 永寿院住職 吉田尚英  
日蓮聖人が信者にあてた手紙に、死に向き合い、臨終のときを思い描き日々を送ることが大事だとある。信心によって、死の瞬間、「今わの際」の安らぎを得られれば、亡くなってからも、ありがたい出会いがいっぱいあると感じられるだろう。

### 坊コン談義「今わの際に何を思う」

「自分の死について考えるのは難しい(家族のことならすぐ話せるけど)」  
「今日帰るときにもまた否がおうにもこのテーマについて考えさせられると思う」  
「死を意識することで生を再確認できる」など

※今の自分と「死」との距離感を実感できるワークショップだったように思われます。

11月17日(木)



坊さん勢揃い

**プチ法話 「戒名の話」** 浄土宗 浄信寺僧侶 平久江剛志  
戒名による宗旨の見分け方から、「東照大権現安国院殿大相国徳蓮社崇誉道和大居士」という日本一長い徳川家康の戒名のこと、差別戒名の歴史まで、戒名のあれこれについて語った。様々なことを勘案して字句を選んだ僧侶の思いも読み取れる。

### 坊コン談義「戒名はいらない？」

「亡くなったおばあちゃんはおばあちゃんのままの名前でいいんじゃないの？」  
「お布施と同じでブラックホールのような話題だ」  
「戒名は生きた証、未来永遠に残る名前になる。名付け親として僧侶は真剣です」  
※死をもって終わりではなく、あらたな関係性のスタートの名前が戒名なのです。

12月14日(水)



語る坊さん

**プチ法話 「お墓の力」** 大田区 日蓮宗 永寿院住職 吉田尚英  
お墓にはさまざまな力がある。遺骨を納める場所というだけでなく、亡き人と出会う場であり、終の棲家が定まると安心できる。歴史を伝える場でもあり、祖霊とつながる場でもある。さらに、寺にとっては経済基盤であり、業者にとっては高額商品である。

### 坊コン談義「あなたはどうなお墓で眠りたいか？」

「お墓は先祖とのかかわりを思い出す、ルーツを知る場所」  
「お墓は遺された人のためにある」「改葬も大変、お墓にしばられている」  
「なんで主人の兄弟はお墓参りに来ないのだろう？ 親族との距離を感じてしまう」  
※それぞれの状況でお墓に対する思いは変わる。だからこそお墓の問題は複雑です。

2012年

1月19日(木)



意見をカードにまとめ分類

**プチ法話「手放すということ」** 寺ネット・サンガ代表 真宗大谷派 中下大樹  
「いのち」はいただいたもの。いつかお返しするもの。そのときに手放すことができるか？ 手放したくない現実と、自分の思うようにならない現実があることを、災害や事故、そして「死」から、日々学び、気づかされている。

### 坊コン談義「葬儀は、なぜ嫌われるのか？」

「迷惑だ、面倒だ」「お金がかかる」「僧侶や葬儀社に問題がある」  
「大切な人が死んだことを認めたくない」  
「意味が分からない中で、流されているような気がする」

※一人称(自分)、二人称(大切な人)、三人称(つきあい)。立場で葬儀への思いは変わります。

坊コン会場

「ウィズビジネスプラット」

東京都中央区日本橋 3-3-3 山川ビル5階

TEL (03)5201-3883 fax (03)5201-3712 <http://www.wissquare-bc.com/access/index.html>

交通 ●JR 東京駅八重洲北口 徒歩3分 ●東京メトロ 銀座線、東西線、都営地下鉄浅草線 日本橋駅 徒歩3分

# 仏教ひとまわりツアー ダイジェスト

第6回 2月11日(土)  
臨済宗独園寺



住職の法話「日々是好日」

臨済宗 独園寺副住職 藤尾聡允

残念ながら、最近「晴れの日もよし、雨の日もよし」というような曖昧な意味で引用されるケースが多いようです。実は「四苦」「無常」「因果律」など、元来は修行者に向けた深い意味を持つ言葉です。プチ修行の坐禅を通して、今一度現代人の視点から見つめてみたいと思います。

## プチ修行「坐禅」

- ①調身 姿勢をチェックし、自分本来の自然体姿勢を確認して頂きます。
  - ②調息 深い呼吸、吐く息をゆっくり長くするよう調えます。
  - ③調心 身体と呼吸が調ったら、そこからが真のスタート、ゆっくりとところを整えて行きます。
- 坐禅はこころを坐らせるプロセスワークです。

## 参加者の声（アンケートより）

- ・座禅の時間が程よくて楽しめました。お菓子がとてもおいしかった。お坊さんとの談話も勉強になった。
- ・臨済宗のことについてもう少し知りたかった。座禅を続けてどのように変わってきたのかの話も。
- ・茶話会も懇親会に参加されない方々には良い機会かと思う。去年の模擬葬儀も面白かった。
- ・模擬葬儀的なものは残したほうが良いように感じる。初めての方はそのほうが気楽だと思う。

## サンガ・レポート 「模擬葬儀」を振り返る

浄土宗 浄信寺住職 吉田健一

「供養」の梵語原語は、「プージャー」と言い、「尊敬する」という「プージ」から派生した語です。仏様や亡き人に対する敬いや情愛の念があって初めて供養の心が生まれ、それを形とした作法が出来上がるのです。安いだけの葬儀や、形だけのお焼香、そのようなことは「ハウ・トゥ本」で調べられるでしょう。しかし、このようなことを続けて行けばどこかで疑問が生まれます。そして、現代のように、「一体こんな葬儀(供養)に何の意味があるか？」という本質に立ちかえる傾向は必然の結果でしょう。

「模擬葬儀」第1回目では、参加者の方々を親族と見立て、白装束の私に手甲脚絆の旅支度を着けてもらいました。家族が共に「死の向こう側」に同じ物語を見ながら、世代を超えこれを共有していた頃の儀式を再現しました。第2回は、作法としてではなく、供養の本質にかえて焼香の意味をレクチャー致しました。第3回は、僧侶として儀式という視点から葬儀に最小限必要と思われる道具を用意し、「どこまで安くできるか？」ということを行いました。第4回は、各宗派のお葬式の違い、第5回は各宗派のお仏壇の違いをその宗派の僧侶に説明してもらい、各々の宗派のもつ世界観を感じて頂きました。

全5回のなかで伝えなかったことは、ハウ・トゥ本のように「こうあるべき」と形で縛るのではなく、供養の本質に立ち返り、先ず「あなたの亡き人に対する思いを大切にすれば良いのですよ」ということでした。そして、何よりもこのことを僧侶の立場で語る事が大切ではないかと考えております。今後もまた機会がありましたらこのような視点で皆様と共に葬儀を考えて行ければと思っております。



ある時は、おくらればと



ある時は、葬祭ディレクター



その実態は、熱く語る健一和尚

# 寺ネット・インフォメーション

3月11日(日)

東日本大震災一周忌



全日本仏教会では、2012年3月11日に「東日本大震災一周忌法要」及び「地震発生時刻の鐘撞き」を全国の寺院へ呼びかけています。

首都圏で法要・鐘撞きを予定している主な大きな寺院は、浅草寺(聖観音宗)・護国寺(真言宗豊山派)・増上寺(浄土宗)・池上本門寺(日蓮宗)・成田山新勝寺(真言宗智山派)・川崎大師平間寺(真言宗智山派)・建長寺(臨済宗建長寺派)・円覚寺(臨済宗円覚寺派)・孝道山本仏殿(孝道教団)などです。

また、みなさんの身近なところでもこの呼びかけに応じているお寺があると思います。ご近所のお寺の鐘が鳴ったらぜひ手を合わせてください。

3月17日～23日

春のお彼岸

お彼岸の中日である春分・秋分は昼と夜の長さが同じで、仏教で説くかたよらない心「中道」に共通するものがあります。寒さも緩むこの時期に仏さまの教えにのっとして自らを振り返り、ご先祖さまから受け継いだのちに感謝しましょう。

4月8日

釈尊降誕会(花まつり)

インドのルンビニー園でお釈迦さまが誕生されたとき、天より甘露の雨が降り注いだと言われています。今でも4月8日には誕生仏に甘茶をそそぎ、お釈迦さまのお誕生を祝う「花まつり」が行われています。

4月7日(土)

～8日(日)

池上本門寺「春まつり」

7日 13:00「五重塔法要」

8日 13:00「花まつりパレード」

14:00「花まつり法要」

7日・8日 10:00～15:00「花まつりフェスティバル」

詳しくは池上本門寺HP (<http://honmonji.jp>)



あなたの大切な人に  
ピンクのチューリップ  
を贈ろう



お釈迦様の誕生日「花まつり」をもっと身近に感じてもらうために、いのちに感謝の想いを込めて、大切な人に花を贈り合い、いのちのつながりを感じようという運動を展開しています。

4月8日(日)池上本門寺「春まつりフェスティバル」にて、『私のワンピース』著者 西巻茅子先生を囲んで絵本の読み聞かせとピンクのチューリップ販売を行ないます。詳しくは池上本門寺HP (<http://honmonji.jp>)



5月11日～12日

「つるしびな展」

宮城県牡鹿郡女川町

保福寺

宮城県牡鹿郡女川町、保福寺様(曹洞宗)にて「つるしびな展」を行います。

これは神奈川県平塚市の浄信寺で毎年行われている展覧会の作品をぜひ被災地の方々にも見て頂きたいとの願いから実現いたしました。

もし、お手伝いで参加したい方がおりましたら、サンガ事務局又は実行委員会事務局

([enisi210@live.jp](mailto:enisi210@live.jp))までご連絡下さい。

一日のみの参加も大いに歓迎致します。



## 本の紹介

『悲しむ力』 寺ネットサンガ代表 中下大樹著 朝日新聞社出版 定価 1000円

ホスピス・震災・孤立死・自殺…それでも人生を肯定する 希望の物語

『そっと後押し きょうの説法』そっと後押し僧侶の会 幻冬舎 定価 1100円

勇気と希望がわいてくるお坊さんたちの「生きるヒント」



※このコーナーに掲載を希望する情報がありましたら事務局までお寄せください。